

2021.11.18. 木曜礼拝

聖書に基づく統治

Mac 牧師

J.D.牧師の代講です。週半ばの「聖書の学び」ライブ配信へようこそ。通常は、神の御言葉「旧約聖書」を一行一行学んでいます。今夜は、話題性のある学びをします。学びに入る前に、心を込めて一緒に祈りましょう。

天のお父様。全ての出来事にも拘わらずあなたがし続けて下さっている全てに感謝してもしきれません。主よ、あなたが今夜ここで私たちに会って下さり、あなたの御言葉、あなたの真理の御言葉、私たちが依り頼めるよう御言葉で祝福して下さいますように。私の前を行かれあなたの御力で力づけて下さり恵みで満して下さいますように。あなただけが御出来になる通り、あなたにしか、あなたの羊である私たちに提供できないことを今感謝します。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

それでは、今夜の、私たちの学びのタイトルは、「聖書に基づく統治」です。言わば、非常に広範囲を網羅しています。このシンプルなタイトルには、多くの事柄や多くの適用が込められています。その中に含まれている内容全てを、今夜の時間内に説明するのは不可能です。しかし、これを議論しなければならない時代に私たちがいるのを確信します。この2、3年間、統治に関して多くのことが語られてきており、それを否定する方は少ないでしょう。事実、2020年7月、一人の人間が統治することは不可能という2部構成の学びをしました。その学びの中で、いくつかの政府の形態を簡単に見てみました。私たちの政府の構成を調べましたね。その元となる土台。言わば、当時起こっていた社会問題や、非聖書的な対応も起こっていました。社会的、国際的、グローバルな問題が増え続けているこんにち、それらは未だ起こり続けていると言えるでしょう。ですからこの話題性ある「聖書に基づく統治」というタイトルで、すべての政府の帝国は、神によって設立されたものであることを、聖典から思い起こしてほしいのです。全てです。これには神の理由があり、現行の支配体制の中で自分がどこにしようと、クリスチャンとしてどのように行動し、対応すべきかに結びついています。そして聖典の中には、人がそれに従うならば、人を祝福するための政府制度について、神が素晴らしいご計画をご用意しておられたことが分かります。しかし今夜の話題の中では、私たちがいかに、私たちの王に統治されるべきか、そして常に統治されなければならないかをテーマにします。それが鍵です。現在、この世の王に仕えている人々の心に正しく影響を与えるには、それが唯一の方法です。今、皆さんに率直に言います。これは、私が最も苦手とする話題です。それを明確にさせていただきます。それは、私たちがクリスチャンとして関わり続ける、あるいは関わってきた、もしくはいつか直面するかもしれない、いくつかの政治的行動や行為に触れることを必要とするからです。このテーマに取り組むにあたり、私たち全員が、神の御言葉で証明されたものを見れるよう祈ります。この全てに関して、これからお話しする短い質問のリストに、私たちはどのようにして答えることができるのかをです。なので、お付き合いください。1つ目の質問は、簡単です。

1) 私たちはクリスチャンとして、あらゆる場面で悪を暴くのか？

答え：絶対に”はい”です。それは簡単です。

2つ目の質問は、

2) クリスチャンとして、市民的な義務や責任はあるのか？

答え：“はい”

しかし、私たちの関与は限られています。限界があります。3つ目の質問は、
3) 私たちはクリスチャンとして、国内や社会運動に参加するのかわ?

答え：めったにない。場合によります。－(笑)－

これには相当な見識が必要で、私が見たところでは3つの重要な要因があります。それが以下です。

①そのような運動は、神聖なものでなければなりません。言いますよ。9割の運動が不要なものなのです。

②そのような運動は、現在の政府の規則に沿った合法的なものでなければならない。そして③は、

③そのような運動は、全体として良い実を結ばなければならない。

これらの3つの要因が揃っている必要があり、その運動を維持するためには、その原則を維持しなければなりません。そもそも何のための運動なのか、という最初のコンセプトから。理由は、神聖なら、止められません。意味は、私たちの神が最高の法であるため、法にかなっているからです。そして神によって、良い実だけが生み出されます。では、この短いリストの最後の質問です。

4) 人に勝る、真の生ける神を礼拝するため奉仕するのは政府の規則か?

答え：“はい”

しかし、それがどのようなものかを知るためには、真の生ける神の御言葉を知らなければなりません。そして、私の視点からここに問題があります。なぜなら、多くの人々が真の生ける神に仕え、礼拝し、自分のしていることが神の御名のもとにしていると思込み、彼らは神の御名のもとに、神の御国のために戦っていると主張します。しかし、かつてパウロと呼ばれていた者（パウロ）に見られる通り、彼はそうではなかった。また、多くのクリスチャンも同様に違います。何が起こるでしょう？ 私たちは結局、神の英知の御霊ではなく自分の知識という肉に基づいて行動してしまいます。それが問題です。私たちは、あまりにも多くの場合、自分の感情に囚われています。感情が、私たちに最善を尽くします。私たちは心を守らなければなりません。「私たちにはこんなアイデアがあり、良いことをしたい！」しかし、神を欠いては、それがどのようなものなのか、私たちには本当に分かりません。そんな良いものは、どれも持続可能ではありません。ただのバンドエイド（救急処置）です。今夜起こる事を祈るのは、神の御言葉が統治全体についてどう語っておられるかを聖典で確認することです。そして、どのような制度の下であっても、すべての神の民の行動を示すこれらの質問に答えることです。宜しければ、この中に足を踏み入れ、神から、そして神だけから統治を受けるとき、どのような種類のものになるのかを絵に描いてみたいと思います。

1つ目、邪悪なものを暴くこと。これこそが、神の民のすべきことです。悪を暴く事。まず第一に、悪が何なのかを知らなければなりません。私たちは、律法ではなく、恵みの中で生きているとしても、神の恵みは、律法の下でなくても、悪とは何かを教えてください。それがこの世です。真の生ける神のご性質に反するものはすべて悪です。それがどのようなものか分からないなら、聖典を調べてください。なぜなら、私たちが悪を暴くことに失敗したとき、よろしくないのは、私たちは自動的にその当事者になることをよく知っています。ただ同意するだけで、です。悪に直接手を下すことなく、悪を暴ける最良の方法の一つが、「エペソ人への手紙 5章 11節」の最初の部分に記されています。神の御言葉をお読みします。

エペソ 5

11a 実を結ばない暗闇のわざに加わらず、

さて、それではどうやって悪を暴くのでしょうか？ どういう意味でしょう？ これは、悪であるものから自分を切り離すことで、そうすることで、周りの人たちにも影響を与えることができます。世から離れて生活をしていると、人々は注目します。何かが違うのがはっきりします。人々が質問します。そのために、どんなときにも答えられるようにする必要があります。これには、様々な方法があります。一例を挙げると、世から離れて生きる私たちの主であり救い主であるイエス・キリストのより大きな知識を引き寄せながら、あなたがキリストの下に来、悪から自分を切り離すと、誰かがこう言います。

「ねえ、あのさ～？ 気づいたんだけど、君は私たちと、あれやこれや、こんな会話をするのではないよね～」いい加減にしてほしいです。こうなります。「何なの？ 役立たずの人か何か？ ”おりこうちゃん”

だったりするんですか～？」しかし、他の人は思います。「あなたは何か違うだけかもしれない。」とそれは何か？ そして、見極めとなるのが... あなたの答えとあなたの歩み方の組み合わせが、大きな衝撃を与えます。想像してください。それは、この節を完全にすることを招きます。そのように歩むことで、闇の業と交わらないことで、それが、暴くということです。人々が可能にするのが、私たちが光の中を歩くと、動向が表に出るのです。そして、この状況もまた異なり、私たちの関わり方も変わってくるでしょう。私たちは、なぜ、どのようにして生きるのかについて聞かれたとき、そのアプローチの仕方を常に祈るべきです。時に、簡単な会話だけのこともあります。それ以外には、より慎重なアプローチをとることもあります。しかし、ここで一番重要な要素は、私たちの生き方なのです。光の中で生きることが悪が暴きます。私たちはそれを暴く必要があるのです。また、その理由の一つが語られているのが、「エペソ人への手紙 5 章 13 節」です。神の御言葉をお読みします。

エペソ 5

13 しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。

さあこれを考えてください。これを色々な方法で分解できますが、最終的には全て同じ結論になると思います。ここで、簡単な説明や定義をしてみましょう。言わば、「私たちは光である。私たちの行動が、闇を照らす。闇の中にいる人たちは、光の影響を受けて彼ら自身が光になる。」層を剥がす方法は他にもいろいろあります。しかし繰り返しますが、根っこにあるのは、「私たちの歩み方で人々が変わる」ということです。受け取りたいと思っている人は、誰でも受け取れます。しかし重要なのは、私たちがその中を歩いていなければそうならないということです。間違いなく。これは、より受動的なアプローチかもしれませんが、非常に効果的です。これは、私たちが手本となって生きながらしえる全てなのです。そうすることでもたらされるものが、「ピリピ人への手紙 2 章 15 節」に書かれています。神の御言葉をお読みします。

ピリピ 2

15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、

”曲がった邪悪な世代のただ中であって”これは、キリストにあって生きる私たちにできることです。輝く事。考えてみてください。自分が曲がった変な時代に生きていることや、暗闇の中を歩いていることがどうやって分かるのでしょうか？ どうやって分かるのでしょうか？ 彼らは光を見なければなりません。輝いていなければなりません。それがなければ、私たちの発言はほとんど影響しません。神の御言

葉は、空しく帰ってくることはありません。(イザヤ 55:11 参照)

しかし、これを考えてください。クリスチャンとして暗闇の中を歩くなら、それにはどんな見返りがあるのか？ なおも人々は、闇の中を歩み続けているのですから。この受動的なアプローチは、私たちが光り輝いていなければ大きな効果を発揮しません。しかし、先ほど述べたように、悪を暴くことは必ずしも受動的、また言わば一辺倒な言葉で行えません。様々な面で、より積極的に行動しなければならない時があります。これは、少なくともアメリカでクリスチャンとして、私たちにできる最も重要な市民義務の一つに繋がります。望まなくとも、私たちはそれに対処しなければなりません。それが、私たちが持つ投票権です。ほとんどいつも聞かれる質問は、「なぜ投票するのか？」「何のために？」「政府は上から下まで歪んでいるんだから、時間の無駄だ。」そういう会話がどんどん続きます。これに答える代わりに、多くの人が過去に聞いたことがあるのが、「義務で、あなたの仕事だから、これをそれをしてしなければならない。」私は違ったアプローチを取りたいと思います。その理由は、多くのクリスチャンが、自分が何のために投票しているのかをそもそも知らないと思われるからです。皆さん、聞いていますか？ 多くのクリスチャンにとって、この投票するという行為が、ただの運動になってしまっています。探究心を持って意味がありません。何も調べません。多く人は、神の原則に基づいて十分な情報を得た上で判断しようと、時間をかけて政策に目を通すことはありません。神の神聖な原則に基づいて。こんな風に言わせてください。教会は、政治政策の教師ではありません。皆さん付いてきていますか？ 教会は、神の御言葉の教師です。市民として私たちは、自分が投票するという行為に付随して、適切な考察を行う必要があります。そんな長い時間をかけたり、疲れ切るような必要もありません。しかし繰り返しますが、私には、多くの方ががしなないように思えます。なぜなら、多くの公言するクリスチャンが、神の御言葉に真っ向から反する命令や法案を支持しているからです。そして、それを誇りに思っているのですから。私は、あれもこれも、それも、大変混乱してしまうような、ある種少しずつ入っているとかの、法案のことを言っているのではありません。違います、違います。私が話しているのは、はっきりとした悪の法令です。箱の中に入っていて、即 “同意します。”を選ぶ。「あなたの宗教は何ですか？」”クリスチャン”にチェック(レ点)する。ただ、それに私は困惑します。どうして悪を支持することができるのでしょうか？ これは、クリスチャンと称している人たちが、それらのことについて無知であることを示しているのかもしれませんが、もしくは、公言している人が全くクリスチャンではないかです。ひとつだけ確かなのは、知っているなら、より良いことをします。人々は、聖典の中で正義のために声を出す必要があることを指摘します。聖典の中で、私はそれを見て理解します。それが真実です。しかし、その正しさは主のものであり、主にあつてと主張する者は、主の御言葉に立たなければなりません。これは、あたかも人間が何かを成し遂げられるかのように、何かをするための密かな呼びかけではないのをご理解ください。これは、神の御言葉の正しさに基づいて、本当に正しいことのため立ち上がることです。始終貫く事です。神に終わりはありません。これが私たちのアプローチでないなら、「何がポイントなのか？」と言えるのです。あなたの言うとおりでからです。何がポイントなのか。感情でチェック(レ点)するなら、家にいてください。「箴言 14 章 34 節」、神の御言葉をお読みします。

箴言 14

34 正義は国を高め、罪は国民を辱める。

このことに関しては、どの国も例外ではありません。真の生ける神を欠くなら、どのような形態の政府であっても 人々は苦しみ、いわゆる王朝は崩れ、彼らは排除され、神が認めた者にとって代わられます。

私たちは、悪の政権に対して驚くべきではありません。なぜなら、私たちは、悪の帝国がどれだけ神の罰の道具としても用いられているかを見てきたからです。私たちが神の御言葉に立ち、善いことを行くなら、何があっても、真の生ける神を敬います。私たちは、イエスが来られるまでの間、ここで忙しくしていなければなりません。夢中になって忙しくしていないなら、イエスが来られることに関して、ほとんど何もしていないことになります。これが、市民の分野には限界があるという意味です。私たちは皆、政治家ではないのを、神に感謝します。私たちには、より高い使命があります。これは私たち全員に当てはまります。特に主の家では。ここ数年、アメリカでは、あらゆるものが政治的に利用されており、その中には説教壇も含まれています。これは、多くの理由から非常に問題です。私たちが考えなければならないことの一つは、どの政党も答えを持っていないことです。彼らにはありません。

分断された家は立ち行きません。(ルカ 11:17 参照)

議会の成り立ちやその政府について調べたことはありますか？ 基本的に、最初からボロボロでした。異なった方向性を持つ政党で構成されています。今となつては、意見の違いは問題ではありません。団結できないこと、それが問題です。もしあなたが、こんにち私たちが一丸となれると思っているのなら、私にはあなたがどの惑星にいるのか分かりません。なぜなら、ある時点で神がいない限り、党への忠誠が、常に人々の益よりも優先されます。人々は党の方針に従う傾向があります。何というか、徒党を組むというか、とにかく崖を降りて、忘却の彼方に行ってしまうのです。何も調べず、ただ進んで、そして、私たちが羊だと思っているのか？ 私たちには良い羊飼いがいます。それがポイントです。私たちは世の羊ではありません。私たちは天の御父の羊です。このように政府に焦点を当てると多くの教会の指導者たちは、むしろ政府の回復を中心に、自分のミニストリー全体を展開します。和解して行くように、人の心を促すのではなく。言い換えれば、イエスが後回しになります。「これらの市民問題について話し合った数週間後に戻ってきてください。」そして数週間後、イエスが再び扉の前に来られたら、「私たちは、別の市民問題を抱えているのです。」「来週は、イエスについて話しましょう。」そしてやがて、教会が大きな決起集会のようになり、社会問題を解決しようとする。それは神にしかできないことなのに。私たちはこの世に夢中になっています。神の御言葉を欠いているのに気づかず、何も変わりません。言うまでもなく彼らは、主の家を絶望の家に変えています。なぜなら、あなたが政府やこの世に頼るなら、希望がないからです。私たちの希望は、この世のものでもなければ、政府のものでもありません。私たちの希望はキリストにあり、キリストのみにあります。私たちは思い出さなければなりません。社会で行われているすべてのことは、教会では通用しません。教会は神のものです。これが分かりますか？

私たちは、すべてに神を中心にし続ける必要があります。その中には、発言や社会運動への対応も含まれます。私のもう一つのあまり好きではない話題です。「箴言 24 章 21 節」、神の御言葉をお読みします。

箴言 24

21 わが子よ、主と王を恐れよ。そうしない者たちと交わってはならない。

これは限りなくシンプルです。これが、現代の社会運動の多くが、神の御言葉がここで語る事に、注意を払う少数の人々によって、反対の声を上げられている理由です。神の御言葉の中で言われています。”主と王を畏れない者と関わってはいけない。”これは政策上の変化の事を言っているのではありません。これは、既存の政府を倒して、統治するための政権上変化の話です。では、どこでそれをしているのですか？ お～、皆さん知らないですか？ こういう運動ですよ。変化を求めて投票するのは一つの方法

です。しかし、脅迫、暴動、暴力、その他不法行為によって、体制を先導し、打倒しようとするのは神のものではありません。そんなことは、教会にも、神の子を名乗る人の生活にもふさわしくありません。マルクス主義、社会主義、人種理論、分裂教義が教会の中に入ってきたとき、私たちはそれに正面から取り組み、慈悲をもって、それを粉々に潰します。それらは悪であり、暴く必要があります。主に導かれてこのことについて語る時、私は大変熱く語ります。なぜなら、これがどれほど危険かを知っているからです。私たちの政府が、ユダヤ・キリスト教の価値観に基づいて設立されたとしても、それが守られていたわけではなく、その価値観や人によって、決して統治されるものではありません。ですから、それを覚えておいてください。それは起こりません。その価値観には従われていませんでした。当時、神の下にあると主張する政府の中で虐待が起こり、現在も神の下にあるとは主張しない政府の下で虐待が起こっています。人間が入ると不具合が発生します。神だけが完璧なのです。しかし、それにもかかわらず、私たちは、地上のすべての支配権が、究極の神の権威の下にあることを、もう一度覚えておく必要があります。そうなのです。全世界は邪悪な者、悪魔の支配下にありますが、どんな力も神の許可なしには何もできません。「ヨハネの福音書 19 章」、10 節と 11 節の前半の神の御言葉をお読みします。

ヨハネ 19

10 **そこで、ピラトはイエスに言った。「私に話さないのか。私にはあなたを釈放する権威があり、十字架につける権威もあることを知らないのか。」**

そして 11 節の前半です。

11a **イエスは答えられた。「上から与えられていなければ、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。」**

“何の権威もありません” “上から与えられていなければ” “神から与えられていなければ” なぜなら神が、主権者であり、その英知において、理由を分かちおられるからです。私はそれに質問しません。実際、すべての力と権威が、私たちの主、救い主イエス・キリストに与えられているのを私たちは知っています。大切なのは主の統治です。そしてそれがやってきます。しかし、それまでは、どこにいても統治者に服従する義務があります。次が、私たちの学びのための最後の質問です。もちろん神の御言葉で答えます。その質問は、政府の規則を守ることを扱います。因みに大きな例外があります。「ローマ人への手紙」にあります。よく知られている、13 章 1 節から 7 節です。皆さんご覧ください。繰り返しますが、「ローマ人への手紙 13 章 1 節～7 節」です。皆さんがご覧になるように、使徒パウロがここで言っていることをより広い視野で見るとのことをお伝えします。12 章と 13 章を続けて読むことをお勧めします。そうすれば、何が取り上げられているのか、その直接的なポイントを掴むことができ、誤解釈にはなりません。ある程度難しい文脈で、細心の注意が必要です。また私たちは、自分の人生に対する神の御心を追求するため、聖典の中の他の様々な記述も考慮しなければなりません。この 7 つの節を一つ一つ紐解いて説明するにはあまりにも深すぎて、そのための時間はありませんが、私たちが見ていく節が、政府への服従やそれがどのようなものかという問題に、主に仕える義務を放棄することなく、決着をつけられるよう祈ります。キーポイントを、どうか心に留めてください。それを聖句から見ていきます。

ローマ 13

1 **人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。**

2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きま
す。

3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと
思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。

4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れな
ければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人
には怒りをもって報います。

5 ですから、怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。

6 同じ理由で、あなたがたは税金も納めるのです。彼らは神の公僕であり、その務めに専念しているの
です。

7 すべての人に対して義務を果たしなさい。税金を納めるべき人には税金を納め、関税を納めるべき人
には関税を納め、恐れるべき人を恐れ、敬うべき人を敬いなさい。

ここには多くがあります。この手紙が、ローマのクリスチャンに書かれたとしても、この手紙に書かれ
ている原則は、あらゆる形態の政府の中にあるすべてのクリスチャンに及びます。名前を入れてみてく
ださい。これが適用されます。この手紙が書かれた頃、ローマ帝国は、神聖な市民構造ではないことを
ある程度理解していた方が良いでしょう。そうではありません。事実、奴隷制度が廃止される前のアメ
リカの状況よりもはるかに悪かったのです。もっと悪かったのです。私が言おうとしているのが、一つ
の過ちをより小さな過ちで片付けようとしているとは、無知に考えないでください。私の言いたいこと
は簡単です。使徒パウロが神の御霊を介して与えられたこの命令には、その考えがすべて含まれていま
す。そのすべてが既に知られていました。邪悪な帝国？ はい、間違いありません。ローマでの墮落に加
えて、多くの人々が忘れてるのは、紀元前42年、ローマ帝国のカエサルたちは、自らを神の子と呼び始
めたことです。皆さん聞いていますか？ これは、カエサル・アウグストゥスが広めました。そしてここ
で、使徒パウロは、ローマのクリスチャンたちに、政府権威に従わなければならないと語っています。
しかし専制政治に服従することとは違います。なぜなら、すべての政府機関がクリスチャンの神ではな
いからです。政府の権威に従うことと、神の代わりに暴君に支配されるのを了承しないこととは違いま
す。それがどのようなものであるかは、人々が受ける政府の規則によります。イランのクリスチャンの
対応は、彼らの法律や法制度、その他のあらゆることと相まって、アメリカでの対応とは異なるでしょ
う。しかし1つ同じなのは、私たちが、他の神に仕えることを決して受け入れないということです。私
たちは、何があっても真の生ける神に仕え続けます。ここでの一番のポイントは、統治者に立ち向か
おうと何の試みもしてはいけないということです。また、間接的な政策、法律、税金、慣習に関して政府
に反抗してはいけません。これが、部分的に使徒パウロが表現しているのです。収益がクリスチャンの
反対することに使われていても、税金は支払われました。ここではそうしていますよね？ 彼らが資金を
提供している先は？ しかし終わりの日、私たちはそれを暴露します。そしてそれは私たちにとって何で
すか？ 私たちは、神の御言葉に従うことで神を敬います。教会全体として、政府の監査に時間を費や
している暇はありません。私たちは、神の仕事の域で手に鋤をかけ続けなければなりません。それが私
たちがすべきことです。そうすると、光が輝き、それらのことが暴かれるのです。これについて考えて
ください。覚えていますか？ 使徒パウロもローマ市民でした。彼は可能な限り法律を利用しました。
しかし彼は、神のご支配する教義に直接影響を与えたり、反する場合には彼らの法律に従いませんでし

た。またパウロは、同じ理由でユダヤ人の律法にも従いませんでした。聖典を通して、パウロには、私たちが求めなければならない識別力ある御霊があります。非の打ち所ありませんでした。しかし多くの場合、アメリカでクリスチャンである私たちは、火を消すため走り回っているようなものです。JD 牧師と私は少し前に、この話をしたことがあります。敵は、あなたに小さな火事を追いかけさせるのが大好きです。炎上に次ぐ炎上。主のために燃えている時間が、ほとんど、あるいは全くなくなります。このようなことをしていると、様々な間接的問題に巻き込まれる可能性があるので注意が必要です。それは何の意味もありません。このようなものには、多くのエネルギーが使われます。そして最後に、何の価値があったのか？ 実のない争い、議論。ソーシャルメディアで何時間も人々と議論しています。皆さんご存知なら嬉しいですが LinkedIn を除いて、私はソーシャルメディアのアカウントはありません。神に感謝です。怖い話を聞きますから。座って画面の向こうの人と議論するなんて、私には考えられません。私には出来ません。私たちはこれを逆にとってしまい、神が仰ることに直接影響する事柄を扱わず、それを避けて、他の小さなことに対処してしまっています。でも、一步踏み出すと？ そう、それが状況を変えるのです。敵は好んでいます。なぜなら、キリストの体の中で多くの人を不自由にし、分裂させ続けているからです。しかし、神の御言葉に感謝します。私たちは、教会が勝利することを知っています。さて、使徒パウロの識別力についてですが、統治者の側面に屈しなかったということです。それが主に仕えることに繋がっていたのを私たちは理解する必要があります。そのことを理解していますか？ それが、主に仕えることに繋がっていたのです。「使徒の働き 9 章 23 節から 25 節」に記されています。当時サウロ（パウロ）がユダヤ人から逃れる時のことです。神の御言葉をお読みします。

使徒 9

23 かなりの日数がたち、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、

24 彼らの陰謀はサウロの知るところとなった。彼らはサウロを殺そうと、昼も夜も町の門を見張っていた。

25 そこで、彼の弟子たちは夜の間に彼を連れ出し籠に乗せて町の城壁伝いにつり降ろした。ではなぜ、ユダヤ人たちは仲間であるユダヤ人を殺そうとしたのか。実際には、元パリサイ派のパリサイ人を？ なぜなら、サウロ（パウロ）はイエスの御名で説教をしていたからです。ユダヤ人の指導者、ひいてはローマの指導者による命令で、やってはいけないことだったのです。言い換えれば、サウロは法を破ったのです。それとも、“彼らの法”を破ったと言うべきでしょうか？ これを知っていれば、自首することも可能だったでしょう。「私は法を破りました。私を探していると聞きました。」と。でも彼はそうしなかった。サウロは、人間の命令に反して、神の命令を取ったのです。彼には、神からの任務がありました。神がそう仰った時にだけ、終わるのです。私たちは何をしようと言われていませんか？ 私たちは神からの任務を受けているのでしょうか？ そうなら、私たちは任務に従っていますか？ それとも、私たちは、神がするよう仰ったすべてを妨げるような命令を許しているのですか？ 私たちの人生に対する陰謀を聞いたことがありませんか？ 避ける方法を見つけられないのですか？ これから何がやって来るのか知らないのですか？ 私たちの全てが、神の御言葉に含まれています。驚くことはありません。留意ください。かつて高い地位で、尊敬されていたサウロが、主への奉仕のため、すでに失われた命を救う為今度は籠に入れて下ろされる事になるのです。たぶん私たちは皆、最も高い神に仕えるため、絶望の籠で下ろされる必要があるのかもしれない。神が権力者を支配しておられるのは、この場合だけではありません。

「使徒の働き 12 章」に記されています。使徒ペテロが逮捕された時です。覚えていますか？ ヘロデ王

によって牢獄に入れられました。ペテロが取り押さえられたことに注目すべきだと思います。つまり、彼を捕らえに行ったということです。そして彼を牢獄に入れた。殆どの方がその記述を知っていますね。御使いに突き起こされ、立ち上がって服を着、サンダルを履き、マントを着、御使いの後を追えと言われてたとあります。そうして彼らは出発し、そして第一の衛所を通り抜けます。それから第二の衛所を通り抜け、牢獄と町の境目町に通じる鉄の門まで来ると、御使いが離れます。今や、ペテロ一人です。これって脱獄です。それって法律違反ではないですか？ 神聖なる脱獄と言うべきでしょうか。しかし注目ください。ペテロは言います。「何が起こったか分からないよ。外にいる。自分が脱獄してるのは分かる。戻ればいいの？ 刑期を短くしてください。私はちゃんとしますから。」いいえ、彼はそうしませんでした。「使徒の働き 12 章 11 節」で語られています。神の御言葉をお読みします。

使徒 12

11 そのとき、ペテロは我に返って言った。「今、本当のことが分かった。主が御使いを遣わして、ヘロデの手から、またユダヤの民のすべてのもくろみから、私を救い出してくださったのだ。」

使徒の働き 9 章のサウロも、ここでの使徒ペテロも、人の法を破ったことで追われますが、神の御言葉を守ることで守られるのです。私たちはこのことに気づくべきです。主は、主の救いの代理人として、1 つの場合は人間を、もう 1 つの場合は御使いを用いられました。場合によっては、逃げられません。なぜなら、「使徒の働きの 12 章」で、ヤコブはヘロデ王に剣で殺されました。しかし聖句には、ヤコブが統治者に駆け込み自首したとは書かれていません。私たちにはそれは分かりません。聖書には、ヘロデ王が教会の一部の人に嫌がらせをしたと書かれています。なぜか？ 彼の王権が、教会の礼拝を覆したかったからです。それがユダヤ人を喜ばせました。ユダヤ人たちは、自分たちの王はカエサルだと決めていたからです。さてクリスチャンたち、私たちの王は誰ですか？ 私がそう言う理由の一つは、ここアメリカで、神の御言葉に敵対し、統治者が教会に課すことができるのを、私たちはまだ垣間見ているに過ぎないからです。殆どの場合、教会の人たちは、何も言わずに屈服しました。それに、無数の公言するクリスチャンが革命家と手を組みました。イエスの御名で福音を宣べ伝えるのではなく、自分のスタンスが正義の名の下にあると宣言しているのです。違いが分かりますか？ 最後に、イエスが本当に私たちの王なら、イエスの御言葉に従うべきです。人間の法律を使って抗議するのではなく、指導者たちのために祈ることを命じておられます。「第一テモテ 2 章 1 節から 4 節」を一緒にご覧ください。それで締めくくります。主要な教訓と、これがどのように神の御言葉で表現されているかを見てみたいと思います。どうか留意ください。「第一テモテ 2 章 1 節から 4 節」です。神の御言葉をお読みします。

I テモテ 2

1 そこで、私は何よりもまず勧めます。

「抗議しなさい。」とは書かれていません。ではもう一度。

I テモテ 2

1 そこで、私は何よりもまず勧めます。「政策に」とも書かれていません。

I テモテ 2

1 そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。

2 それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。

3 そのような祈りは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることです。

そして4節、お聞きください。

4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

私たちは、私たちの指導者のために祈っていますか？ 賛同する人のためではなく、賛同できない人のためにです。私たちは、彼らのために実際に時間を割いて祈っているのか、それともただ抗議しているだけなのか。これが良いもので、受け入れられるものであり私たちの救い主、神の御目に適うのです。もう一方は良くありません。受け入れられるものではありません。祈りを上回ることはできません。私たちは皆、自分の心を吟味し、この御言葉に耳を傾ける必要があります。私たちの祈りや愛が、自分と同じ意見の人にだけ向けられるような冷たいものにならないように。取税人でさえそうしますよ。聖書に基づく統治。この地上で王を待つ間、私たちが行うべき行動について、さまざまな例が挙げられています。何が計算されたリスクなのかを知らながら、蛇のように賢く、鳩のように素直でなければなりません。神に仕える目的を果たすものが何かどのような行動を慎むべきかを知り、結果が良いと思っても、今しない方が、得られる益が上回る場合があるからです。このすべてに、識別力が必要です。このことが、法を犯すことを擁護しているとは思わないでいただきたいと思います。そういうことはありません。それが要点ではありません。私たちがあるべき姿は、注意してこれを言います。神の恵みの中で法を守る者であって、法を維持する者ではない。分かってもらえますか？ 分かってもらえるよう祈ります。私たちが知るべきことや、自分を律するための行動はすべて、神の御言葉に記された統治原理に一致していなければなりません。イエスが、すべての中心である必要があります。ご起立ください。祈りましょう。

主よ、私はあなたの御言葉があることを、どれほど私たちが感謝しているか言葉にできるかどうか分かりません。それを頼りにし、信頼し、あなただけを信頼します。あなたに畏敬の念を抱きます。今夜語られたすべてのことが、聞こうとする人たちに受け取られ、何よりもあなたに喜ばれるものになるのを祈ります。それが一番大事です。主よ、私たちに与えられた時間の中で、この情報を私たちの人生に適用し、あなたの御言葉のより良い管理者になれますように。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝します。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7